

1 単元名 Unit 4 日本大好き (NEW HORIZON English Course 1)

2 単元の目標

- (1) 既習表現や新しい表現を用いて、積極的にコミュニケーションを図ろうとする。
(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)
- (2) 既習表現や新しい表現を用いて、身近な事柄について書いたり、話したりすることができる。
(表現の能力)
- (3) 「日本大好き」の対話文を読んで、折り紙や好きな教科についての対話の内容を理解することができる。
(理解の能力)
- (4) 疑問詞 What を使った疑問文や be 動詞の形容詞補語の文、反応することばの用法を知り、相手の言ったことに対する応答の仕方を理解することができる。また、折り紙が日本の伝統文化であることや世界の食文化についての理解を深めることができる。
(言語や文化についての知識・理解)

3 単元について

(1) 単元観

本単元は、折り紙の作品を見ながらの対話場面から始まる。話題は、好きな教科や毎日の朝食へと続く。折り紙、日本語、和食と日本に関係のある話題が展開され、前単元に引き続き、自己表現の幅が大きく広がるよい機会となる。また、折り紙などの日本の代表的な伝統文化とともに、朝食についての登場人物の会話を通して、外国や日本の食文化についても興味を深めさせることができる単元である。言語材料としては、疑問詞 what を用いた疑問文や be 動詞の形容詞補語の文、反応することばなどを扱っており、これらの言語材料を運用し、コミュニケーションへの意欲を引き出すことのできる適切な題材である。

(2) 生徒観 (男子*名, 女子*名, 計*名)

| No | 項目 / 達成度 | 十分達成 | ほぼ達成 | 達成不十分 | |
|----|----------------------------------|-----------|-----------|-----------|-----------|
| 1 | 既習の言語材料を理解している(話すこと) | 55% | 28% | 17% | |
| 2 | 既習の言語材料を理解している(書くこと) | 38% | 43% | 19% | |
| 3 | 外国人とのコミュニケーションに興味・関心がある。 | 30% | 59% | 11% | |
| 4 | 授業で好きな活動はなんですか。 (複数回答) | 聞く 71% | 話す 48% | 読む 43% | 書く 37% |
| 5 | 英語を使って何ができるようになりたいですか。 (複数回答) | 聞く 49% | 話す 72% | 読む 48% | 書く 63% |

入門期のこの時期にすでに既習事項が十分に定着していない生徒がいる。そのため、基本的事項の継続的な指導や反復練習をできるだけ取り入れた学習も必要であると考えられる。新出事項を導入する際には、達成不十分な生徒への配慮を意識することが不可欠である。また、外国人とのコミュニケーションに関しては、約90%の生徒が興味・関心を持っていると答えており、それらをさらに高める指導の工夫が課題であると思われる。

(3) 指導観

本課では、疑問詞 what を用いた疑問文や be 動詞の形容詞補語の文、反応することばを扱っており、身近な事柄を題材にこれらの言語材料を運用し、表現する力を身に付けさせたいと考えている。自信の持てない生徒が堂々と活動できるように、また達成不十分な生徒も興味を持って取り組めるように、場面設定を工夫し、楽しみながら基礎基本の定着を図っていききたい。また、本校の第1学

年では「Let's keep the conversation going .(会話を続けよう)」をテーマとして指導に取り組んでいる。単元ごとに会話を続けるための練習とまとめの発表活動を段階的に取り入れ、会話を続けることができる生徒を育てたい。また、活動の形態を工夫することで生徒の興味・関心を高め意欲的に活動に取り組める場面を多く作り出し、今後の英語学習の中でも重要となる表現の定着を図りたい。さらに表現活動を多く取り入れる機会を増やすことにより、積極性を持って「話す」「聞く」といったコミュニケーション能力の育成へとつなげたい。

4 学習計画 (7 時間扱い)

| 次 | 時 | 授業の中心及び活動内容 | 主な評価の観点 | | | | 評価の観点の具体 |
|---|------|--|---------|---|---|---|--|
| | | | 関 | 表 | 理 | 知 | |
| 1 | 1 | <ul style="list-style-type: none"> ・ ガイダンス ・ 題材の概略をつかみ、学習の見通しを立てる。 | | | | | <ul style="list-style-type: none"> ・ 学習の見通しを立て、これからの学習に興味・関心を持つことができる。 |
| 2 | 1 | <ul style="list-style-type: none"> ・ What is ... ? の文の形・意味・用法を理解する。 ・ What is ... ? を、身近な事柄について運用する。 | | | | | <ul style="list-style-type: none"> ・ What is ... ? について、話し手の意図や状況に合った表現の仕方を理解することができる。 ・ What is ... ? の用法を理解し、身近な事柄について正しく運用することができる。 |
| | 2 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 好きな教科について相手にたずねたり、自分のことについて適切に答える。 ・ be 動詞の文の否定文の形・意味・用法を理解し運用する。 | | | | | <ul style="list-style-type: none"> ・ 好きな教科について積極的に質問したり、相手の質問を理解し適切に答えたりすることができる。 ・ be 動詞の否定文を理解し、身近な事柄について正しく運用することができる。 |
| | 3 | <ul style="list-style-type: none"> ・ What do you ... ? の文と応答の形・意味・用法を理解する。 ・ 毎日の朝食について相手にたずねたり答えたりする。 | | | | | <ul style="list-style-type: none"> ・ What do you ... ? の文と応答の形・意味・用法を理解し、身近な事柄について正しく運用することができる。 |
| 3 | 1 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 構成を考えながら自己紹介文を正しく書く。 ・ 聞き手に正しく伝わるように、スピーチ形式で自己紹介をする。 | | | | | <ul style="list-style-type: none"> ・ 取り上げる話題を選び、構成を考えながら自己紹介文を正しく書くことができる。 ・ 聞き手に正しく伝わるようにスピーチ形式で自己紹介をすることができる。 |
| 4 | 1 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 既習表現を用いて、自己紹介やインタビューの文を作成する。 | | | | | <ul style="list-style-type: none"> ・ 既習表現を用いて、自己紹介やインタビューの文を書くことができる。 |
| | 2 本時 | <ul style="list-style-type: none"> ・ 既習言語材料を用いて書いた自己紹介やインタビューをもとに、会話や発表をする。 | | | | | <ul style="list-style-type: none"> ・ 本課の既習言語材料を正しく運用することができる。 |

5 本時の学習

(1) 目標

ア 既習表現を用いて、会話や発表を意欲的に行うことができる。

(コミュニケーションへの関心・意欲・態度)

イ 既習表現を正しく運用して言語活動を行うことができる。

(表現の能力)

(2) 観点別評価の具体的評価規準

| 観点 | 【評価規準】 | | | 評価の方法 |
|--------|-----------------------------------|------------------------------|---|------------|
| | A 十分達成 | B ほぼ達成 | C 達成不十分な生徒への手立ては手立て | |
| 関心意欲態度 | 既習表現を用いて、自分の力で工夫して会話や発表を行うことができる。 | 既習表現を用いて、会話や発表を意欲的に行おうとしている。 | 教師や友達の助けを借りながら、既習表現を用いて、会話や発表を行おうとしている。 | ・観察 ・発表 |
| 表現 | 既習表現を正しく運用して言語活動を行うことができる。 | 既習表現を運用して言語活動を行うことができる。 | 教師や友達の助けを借りながら、既習表現を運用して言語活動を行うことができる。 | ・観察 ・発表 |

(3) 準備・資料

マイプラン Super Input Response Exercise シート フラッシュカード
アラームタイマー

(4) 展開

| 学習内容及び活動 | 支援・指導上の留意点と評価の観点 | | 資料 | | | | | | | | |
|---|------------------|----------|----------------|---------|-----------------|---------|-----|-----|---|---|--|
| | T 1, T 2 | ALT | | | | | | | | | |
| <p>1 Greetings</p> <p>2 Warm up</p> <p>(1) Rap'n Routine</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content;"> <p>I get up in the morning. I wash my face. I comb my hair. I put on my uniform. ... etc</p> </div> <p>(2) Super Input</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td>1 What's this ?</td> <td>これは何ですか。</td> </tr> <tr> <td>2 It's a bird.</td> <td>それは鳥です。</td> </tr> <tr> <td>3 That's right.</td> <td>その通りです。</td> </tr> <tr> <td>...</td> <td>...</td> </tr> </table> <p>(3) Dictation</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; width: fit-content; margin: 10px auto;"> <p>It's very interesting.</p> </div> | 1 What's this ? | これは何ですか。 | 2 It's a bird. | それは鳥です。 | 3 That's right. | その通りです。 | ... | ... | <p>・元気に挨拶し、意欲的な学習の雰囲気を作るよう配慮する。</p> <p>・全員でリズムに合わせて、「朝起きてから」「学校で」の行動を表現する英語を言う。ジェスチャーをつけてテンポよく行うことで楽しさを感じさせながら、英文とその動作の意味がしっかり結びつくようにする。</p> <p>・T 2 は机間指導をしながら、つまづいている生徒を支援するなど、全員が積極的に取り組めるように支援する。</p> <p>・スーパーインプットの中の1文を聞き取り、何度もノートに書いて練習させるようにする。</p> <p>・T 2 は、英文を見ながら繰り返し書いて練習するように励ます。</p> | <p>・ALT はスムーズに活動できる生徒の発音に気をつけながら机間指導を行う。</p> <p>・ALT はJTE と協力し、全員の生徒が正しいつづりで練習できるようにする。</p> | |
| 1 What's this ? | これは何ですか。 | | | | | | | | | | |
| 2 It's a bird. | それは鳥です。 | | | | | | | | | | |
| 3 That's right. | その通りです。 | | | | | | | | | | |
| ... | ... | | | | | | | | | | |

(4) Response Exercise

• Model talk

A : What's your favorite subject ?
B : English.
It's interesting.
How about you ?

• Exercise

3 Communicative Activity

Conversation Course

- Practice
- Conversation

Speech Course

- Practice
- Speech

4 Evaluation & Closing

• JTE と ALT によるモデルトークを行い，生徒が気楽に会話を楽しむためのヒントを与える。

- 質問や答え方に戸惑う生徒に表現例やヒントを示すなどの支援を行い，誰もが活動に積極的に参加できるようにする。
- ALT は生徒にとって発音が難しいと思われる what's や favorite などの正しい発音を適宜示しながら机間指導を行う。

• コース別活動に入る前に，「顔を上げる」，「相手を意識してはっきりとした声で」などの活動の注意点を確認し活動への意欲を高める。また，発表を聞く態度についても触れ，うなずきや相づちなどを意識的に行うよう助言する。

- 前時に準備した質問や答えを自信をもって言うことができるよう，パートナーと繰り返し練習し，充実した活動ができるようにする。
- 発表の時には賞賛の言葉や感想を述べることで，活動に対する充実感を味わわせたい。
- 話し合いが継続しない場合は，教師が質問を投げかけることで，次の会話を始められるようにする。

- 練習では一人一人のそばについて励ましながら，しっかり覚えることができたかどうか確認する。
- スピーチ中の挨拶や問いかけには，聞く側もできるだけ大きな声で反応するようにし，活動が活発になるようにする。

評 既習表現を用いて，会話や発表を意欲的に行うことができる。

(コミュニケーションへの関心・意欲・態度，観察)

評 既習表現を正しく運用して言語活動を行うことができる。(表現，マイプラン・観察)

- 次時の予告をし，元気よく挨拶をする。